

第1学年2組 国語科学習指導案

1 単元名 くわしくかこう
 「しらせたいな、見せたいな」

2 単元の目標

○助詞の「は」「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。

(知識及び技能(1)ウ)

○経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。

(思考力・判断力・表現力等 B(1)ア)

○語と語や文と文の続き方に注意しながら書き表すことができる。

(思考力・判断力・表現力等 B(1)ウ)

○動物公園で見つけたものに関心をもち、進んで観察したことを書こうとすることができる。

(学びに向かう人間性等)

3 評価規準

知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・助詞の「は」「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p>	<p>・経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。 (B(1)ア)</p> <p>・語と語や文と文の続き方に注意しながら書き表している。 (B(1)ウ)</p>	<p>・動物公園で見つけたものに関心をもち、進んで観察したことを書こうとしている。</p>

4 単元について

1年生は、学級で育てている生き物や学校で楽しい体験をして見つけたものなど、誰かに知らせたいと思っているものがある。興味、関心をもっているものを知らせようと投げかけることで、児童は意欲的に取り組むことができる。また、相手を家の人と設定することで、分かりやすく知らせたいという意欲を喚起できる。

初めに、絵(写真)と言葉で気付きを書かせることは、発達段階を考慮してスモールステップで書く活動を進める際に有効である。その次の、一文を書く指導にもつながる。

作例のモデル文には、一文に一つの特徴が書かれているだけではなく、見つけたことの内容ごとに段落にまとめられている。文だけではなく、段落への意識にもつなげることができる。

P.20で、「文の おわりひは、まる(。)」 「てん(、)を つけた ほうが よみやすい」と書かれといることで、句読点の役割を明確に理解させることができる。また、「『は』『を』『へ』を 正しく つかっていますか。」と呼びかけることで、自分が書いた文を読み返し、自分の文が正しく書けているのかを考えさせることができる。文を見直す際の視点として、児童に提示することで、今後の書くことの学習にもいかすことができる。

(1) 言語活動を通して身に付けさせたい力

本単元では、動物公園で見つけたことを記録して、伝える活動を行う。これは、学習指導要領「2 思考力、表現力、想像力等」「B 書くこと」の言語活動例「ア 身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動」を踏まえている。

動物公園で見つけたことを詳しく文章に書くという言語活動を通して、経験したことから、文章を書くのに必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にする力や、語と語、文と文のつながりに注意しながら書く力を身に付けさせたい。この時に、より詳しい文章が書けるように五感を使って取材したり、ペアトークでより内容を深めさせたりしたい。

(2) 単元における ICT の活用

動物公園で見つけたことは、どんな動物だったか思い出せなくても、戻って確かめに行くことができない。そのため、ICT を活用し、写真で記録を残しておく。その写真をもとに、児童がいつでも鮮明に振り返ることができるようにする。そうすることで、記憶を頼りに書くより内容が深まる。

また、写真に直接書き込むことで、事実かどうかを児童自身が確認しながら活動を進めることができる。思い出して書くことが苦手な児童も、写真を見ながら振り返り、感覚的にメモを作成することでより個別最適な学習となる。

5 児童の実態

(省略)

6 単元の指導計画 (全10時間)

次	時	学習活動	指導の支援の手立て◇評価 (評価方法)
一 次	1	学習の見通しをもつ。	
		<ul style="list-style-type: none"> ○P.17を読み、学習課題を確認する。 ○教材文を読んで学習の流れを確かめ、動物公園で知らせたいものを見付ける意欲を高める。 ○書いた文章は家族に読んでもらうという相手意識をもつ。 ○どんな視点で観察してくるとよいか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○動物公園にどのような動物がいるか、パンフレットやHPから確認させ、大体の目星をつけさせておく。 ○アサガオの観察を想起させ、観察の視点を考えさせる。 ○五感を使って観察し、触れない場合は触ったらどんな感じになりそうか目で確かめることを助言する。 ○メモの見本を見せ、どのようなメモを作ればよいか見通しをもたせる。
		<p>《どうぶつこうえんで見てくるポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○おおきさやいろ、かたち、うごき→め ○におい→はな ○なきごえ→みみ ○さわったかんじ→て(さわれないときは、め) 	

二 次	2 (本時)	知らせたいものについて伝える文章を詳しく書く。	
		○ギガタブに取り込んだ写真を使って、観察して見付けたことを付箋メモに書き込む。 ○同じ動物を選んだ友達同士で交流し、メモの内容を広げる。	○「どんな～。」「どのように～。」の言葉を使って、詳しく聞き出させる。 ○友達と話して付け加えたことは、赤で書かせる。 ◇経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。(記述)
	3	○P.18とP.19の文言を線でつなぎ、一文に一つの事柄を書くことを確認する。 ○見つけた一つ一つのことを短冊カードに書く。	○P.18とP.19の文言をつなぐことで、一文に一つの事柄を書くことに気付かせる。 ○「ーは、ー。」の形になるよう、主語を意識して書かせる。 ○教師が見本を見せ、一文にまとめる過程を示しながら指導する。
	4・5	○短冊カードを並び替えながら、順序を考える。 ○教師の例を見て、どの順序がより分かりやすいか話し合う。	○全体→詳しいことの順番になるとより分かりやすいことに気付かせる。 ○まとまりを意識して詳しく書かせる。 ○並び替えたら、声に出して読んで確認させる。 ◇語と語や文と文の続き方に注意しながら書き表すことができる。(記述)
	6・7	○書き出しを考え、決めた順に沿って文章を書く。	○短冊を順番に並べてから書かせる。 ○難しい児童には、短冊に番号を振って順番に書かせる。 ◇動物公園で見つけたものに関心を持ち、進んで観察したことを書こうとすることができる。(記述)
		○P.20を参考に、文章を声に出して読み、間違いを直す。	○句読点や、助詞の「は」「を」「へ」が正しく使っているかを確認させる。 ◇助詞の「は」「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。(記述)
	9	○正しい、丁寧な字で清書をする。	○原稿用紙の使い方を確認し、一文字空けるところや、句読点の書き方に注意するよう助言する。 ○「おうちの人に読んでもらおう」ことを再度伝え、相手意識をもった丁寧な字で書かせる。
三 次	10	書いた文章を交流する。	
		○書いた文章を友達と読み合い、良いところを伝える。 ○家の人に読んでもらい、感想をもらう。 ○学習を通しての感想を書く。	○どんなことがよく分かったのか詳しく伝えさせる。 ○友達や家の人から見つけてもらったよいところをもとに感想を書かせ、次への意欲を高めさせる。

7 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

- ・経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。

(思考力・判断力・表現力等)

(2) 本時の学習活動

- ・詳しく知らせたい動物の写真に、分かったことを書き込む。
- ・グループの友達と交流し、より詳しい内容のメモを作成する。

(3) 本時の展開 (2/10)

学習活動	指導の支援の手立て◇評価 (評価方法)
<p>1 観察の視点を確認し、本時のめあてをたてる。</p> <p>○P.18の作例と、「どうぶつこうえんで見てくるポイント」を照らし合わせ、どんなことをメモしたらよいか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《どうぶつこうえんで見てくるポイント》</p> <p>○おおきさやいろ、かたち、うごき→め</p> <p>○におい→はな</p> <p>○なきごえ→みみ</p> <p>○さわったかんじ→て(さわれないときは、め)</p> </div>	<p>○ポイントを掲示する。</p> <p>○どのような視点で書かれているのかを児童に気付かせ、写真から線を引くこと、短い言葉で書くことを押さえる。</p> <p>○実際に触って確かめることができなかった動物は、毛や表皮の感じから、感触を想像させる。</p>
<p>知らせたいことを、かんたんなことばでかこう。</p>	
<p>2 写真を見ながら、観察してきたことを短い言葉で書く。</p> <p>○書きたい動物の写真を発表ノートで開いて、付箋に書き込む。</p> <p>○短い言葉で見つけたことを書く。</p> <p>3 同じ動物を選んだ児童同士で交流し、深める。</p> <p>○友達の発表ノートを見て、新たに気付いたことがあれば書き足す。</p> <p>○友達に聞かれて付け加えたことは赤で書く。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <p>○今日の学習で、どんなことができたか振り返る。</p> <p>○次時の予告を聞き、学習の見通しをもつ。</p>	<p>○思い出せないところは、写真を見て気付いたことも書き込んでよいと助言する。</p> <p>○短い言葉が書けない児童には、同じものを観察した児童のものを見せたり、教師が質問したりして気付かせる。</p> <p>○同じ動物を選んでいる人がいない児童は、別のグループに入り、アドバイスをもらう。</p> <p>○色を変えて書くことで、グループトークの良さを確かめさせる。</p> <p>◇経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。(記述)</p> <p>○振り返ったことを発表させる。</p>